

週日の説教

金 大烈 神父 2008年8月30日(土)

《神様から与えられた機会を精一杯生かしましょう》

今日の第一朗読(一コリント 1・26-31)に「誇る者は主を誇れ」という言葉がありますね。「主を誇れ」とはどういう意味でしょうか。私たちの主イエス・キリストを本当に誇るべきものという感激の心で人々に伝えたことがありますか。ほとんどないのでないでしょうか。

私たちは信仰生活の中の一番基本的な部分にさえもついて行けていないことがよくあります。これは、ただ読んだだけで通り過ぎてしまいそうな箇所ですが、よく考えて見ると、本当に主を誇ったことがあるのか考えさせられる箇所です。そして、そういう反省から私たちの成長が始まります。「振り返って見ましょう」とよく言うのは、こういう一つの箇所でも通り過ぎてしまわないで慎重に耳を傾けるようにということです。そういう敏感な心がなければ、素晴らしい言葉が表れても気がつかないで通り過ぎてしまうかもしれません。私たちは、そういう弱さを持っていることを意識しなければならないと思いました。

今日の福音(マタイ 25・14-30)について、考えてみました。

人間には、いろいろなタイプがあります。何もしなくても何でも上手に出来る人、いくら頑張ってもいつも同じ結果になってしまう人。格好がよくて、頭も優れていて、いろいろなものを持っている人。また、生まれつきの障害を持っている人もいます。

今日の福音(マタイ 25・14-30)では、5タラントを受けた人、2タラントを受けた人、1タラントを受けた人が出てきます。5タラントを受けた人は2倍にもうけて、10タラント受けました。2タラント受けた人も4タラントになりました。しかし1タラント受けた人は、持ち主が蒔かないところからも刈り取る怖い存在だと思いながら、土を掘って埋めて隠しました。結果として、何もしないまま隠した人は追い出されます。

ここから私たちは一つ悟らなければなりません。もちろん、現実的には、もう少し多くもらった人もいるでしょうし、もっと少なくもらった人もいるでしょう。しかし、その量は人が救われるための基準ではないことに気づかなくてはなりません。むしろ、たくさんもらった人が何もしないまま全部失ってしまうと、1タラントを隠した人よりもっと悪く評価されると思います。イエスさまは、「1タラントもらった人も何とかしてそれを増やさなければならない」と厳しくおっしゃっています。

私たちと神様との約束の一つは、神様が私たちをこの世に使わした目的のために頑張るということです。私たちはその目的を果たすために、頑張ってやりとげなくてはなりません。

ある人は、人の目はいつも比較するものだと思っています。あの人は恵まれているが自分は恵まれていない。そしていつも自分だけがいじめられる。そんな自分を隠そうとする思いが、カトリック信者である私たちにも結構あります。

そういう人には、挑戦する精神もないし、ぶつかる勇気もない。ただ、自分を隠そうとする。そういうところが私たちの中にはあるのではないのでしょうか。

しかし、イエス様が願うことは、あたえられたその金額には関係ないものです。ただ、自分の器に合わせて頑張っていけばそれでよい。それがイエス様のみ心です。たくさんもらってもいつも不幸な生活をする人は、可哀想です。1円だけをもらっても、その1円の意味、そして自分の生きる生き方の意味をはっきり分かった人は何億円ももらった人より幸せではないのでしょうか。

結局、いくらもらったかは問題ではないのです。もらったものに対してどのように大切にし、それをうまく成長させられるか。その心が問題なのではないかと思えます。

カトリックの信仰は希望です。いつも希望を前に置いて、死ぬまで自分の中に「頑張ろう」、「成長

させよう」、「満足できる自分をつくろう」と思う心を持つことが必要なのではないかと思います。

最後に、イエス様の表現の方法についてですが、「追い出す。すると泣きわめいて歯ぎしりするだろう」という言葉をよく使います。「歯ぎしりする」というのは悔しいことを意味します。「泣きわめいて、悲しくなるだろう」とはおっしゃっていません。それは、自分にも出来ることだったのに、なぜ怠けてしまい、勇気を出して挑戦しなかったのか。そういうことに対する悔しさです。イエス様は、追い出した主人に対する憎しみなどは一つも言っていません。自分のことを反省し、なぜ与えられた機会を生かせなかったのか、ということについて悔しく感じることをおっしゃっています。

私たちは今も生きているし、これからも生きます。私が今このようにしたら将来はこうなるだろうと考えながら選択をします。その選択が正しくなるためには、よく自分の姿や過去を見て予測をすることです。悔しさが生じないようにするためには、今現在のことを一生懸命にやり通そうとする姿が一番大事ではないかと思いました。

ありがとうございました。